

検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さてこのたび、別掲の項目につきまして、2024年4月より検査内容を変更させていただきますのでご案内いたします。

誠に勝手ではございますが、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

敬具

記

変更内容

- 別掲の一覧表をご参照ください。

変更期日

- 2024年4月1日(月)受付日分より

検査内容変更項目一覧

---	検査項目名	変更箇所	新	旧	備考
---	デオキシピリジノリン (Dpyr) [骨粗鬆症]	--- 項目名称 測定方法 報告様式 報告下限 所要日数 保存安定性	--- デオキシピリジノリン (DPD) [骨粗鬆症] CLEIA DPD濃度 (nmol/L) クレアチニン濃度 (mg/dL) クレアチニン補正值 (nmol/mmol・Cr) DPD濃度：7.0 nmol/L 未満 2～4日 7日	--- デオキシピリジノリン (Dpyr) [骨粗鬆症] EIA クレアチニン補正值 ー 3～5日 6週	(4頁参照)
---	肺サーファクタント プロテインD (SP-D)	測定方法	LA (ラテックス凝集比濁法)	CLEIA	(5頁参照)

容器変更項目

検査項目名	新	旧
血漿カテコールアミン3分画	70 11	52 11

名称変更項目一覧

検査依頼画面名	新検査項目名	旧検査項目名
染色体/材料: ヘパリン加血	末梢血好中球BCR::ABL	末梢血好中球bcr/abl
	AML1::ETO-8;21転座解析	AML1/ETO-8;21転座解析
	15;17転座PML::RARA	15;17転座PML/RARA
	CBF β ::MYH11(inv16)	CBF β /MYH11(inv16)
	TEL::AML1転座解析	TEL/AML1転座解析
	TCF3::PBX1転座解析	TCF3/PBX1転座解析
	IgH::MAF(14;16転座)	IgH/MAF(14;16転座)
	c-myc::IgH転座解析	c-myc/IgH転座解析
	API2::MALT1転座解析	API2/MALT1転座解析
	FGFR3::IgH転座解析	FGFR3/IgH転座解析
染色体/材料: 骨髄液・その他	AML1::ETO-8;21転座解析	AML1/ETO-8;21転座解析
	15;17転座PML::RARA	15;17転座PML/RARA
	CBF β ::MYH11(inv16)	CBF β /MYH11(inv16)
	TEL::AML1転座解析	TEL/AML1転座解析
	TCF3::PBX1転座解析	TCF3/PBX1転座解析
	IgH::MAF(14;16転座)	IgH/MAF(14;16転座)
	c-myc::IgH転座解析	c-myc/IgH転座解析
	API2::MALT1転座解析	API2/MALT1転座解析
	FGFR3::IgH転座解析	FGFR3/IgH転座解析
代謝内分泌検査	1型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)	1型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)

デオキシピリジノリン[骨粗しょう症]

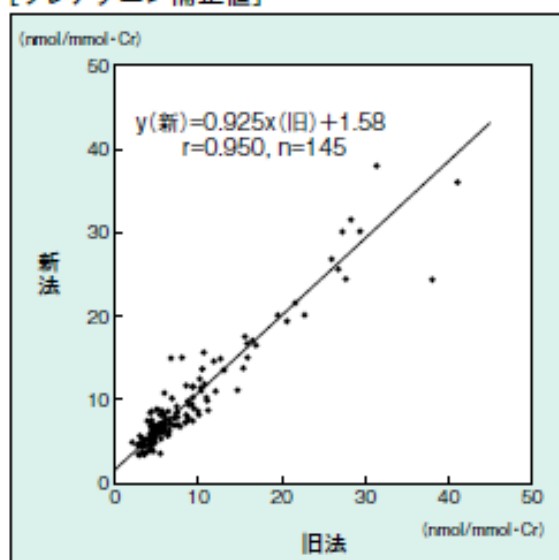
測定試薬をEIA試薬からCLEIA試薬に変更します。結果値はデオキシピリジノリン濃度のクレアチニン補正値の他に、新たにデオキシピリジノリン濃度とクレアチニン値も併せてご報告いたします。

新旧二法の相関は良好であり、基準値の変更はなく、所要日数を短縮いたします。なお、デオキシピリジノリン濃度が検出下限(7nmol/L未満)の場合は、7nmol/Lを用いてクレアチニン補正を行い、クレアチニン補正値は「未満」を付記してのご報告となります。

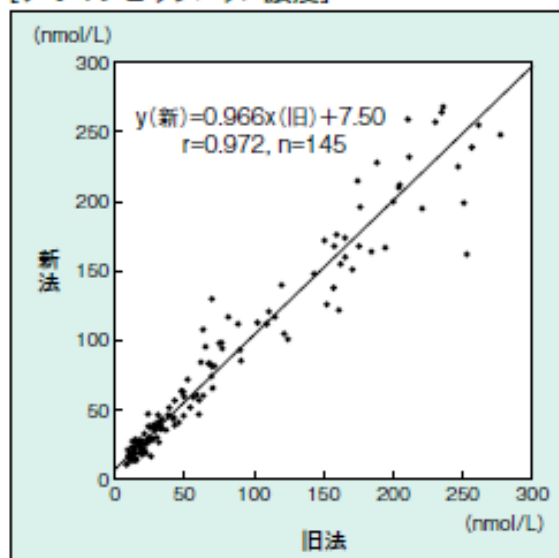
また、項目名の略称を日本骨粗鬆症学会「骨粗鬆症診療における骨代謝マーカーの適正使用ガイド」に準拠し、変更いたします。

新旧二法の相関

[クレアチニン補正値]



[デオキシピリジノリン濃度]

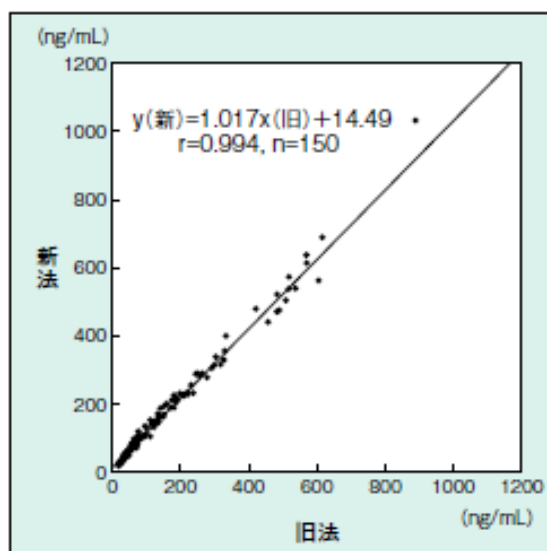


(LSIM社内検討データ)

肺サーファクタントプロテインD (SP-D)

測定試薬をCLEIA試薬からLA (ラテックス凝集比濁法) 試薬に変更いたします。新旧二法の相関は良好で、基準値等の変更はございません。

新旧二法の相関



(LSIM社内検討データ)